

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (観光交流促進コース)		訪問国	シンガポール 大韓民国	
学校名	静岡県立駿河総合高等学校	氏名	佐々木普慈	学年	1年

1 留学に行こうと思った経緯

私が留学に行こうと思ったきっかけは、静岡空港が地域の玄関口として十分に活かされていないのではないかと感じたことです。静岡県には多くの魅力があるにもかかわらず、空港が「移動のためだけの場所」になっている現状に課題を感じました。そこで私は、空港そのものが目的地となり、地域の魅力を発信できれば、静岡全体の活性化につながるのではないかと考えるようになりました。



シンガポールのチャンギ空港や韓国の仁川空港・金浦空港は、空港内の体験型施設や文化発信の工夫により、世界的に高い評価を受けています。実際に現地を訪れ、利用者目線で海外空港の工夫を調査し、その成果を静岡空港の活性化に活かしたいと考え、今回の留学を決意しました。

2 出発前の活動

現地での探究活動をより有意義なものにするため、出発前には静岡空港や地域活性化に関する情報収集を行いました。静岡空港の利用状況や課題、県内外の人が空港に対してどのような印象を持っているのかを調べ、「なぜ静岡空港は目的地として選ばれにくいのか」という視点を明確にしました。また、海外の先進空港であるシンガポール・チャンギ空港や韓国の仁川空港、金浦空港について事前調査を行い、空港内の施設やサービス、地域文化の発信方法を比較しました。これらの準備を通して、現地では利用者目線で空港の工夫を観察・調査することを目標にしました。

3 現地での活動

シンガポールと韓国では、空港がどのように人を惹きつけ、地域の魅力を発信しているのかを中心に現地調査を行いました。シンガポールのチャンギ空港では、空港利用者や来訪者にインタビューを行い、印象に残った施設や「また来たい」と感じる理由について話を伺いました。また、チャンギ空港内の体験型施設を実際に利用するとともに、空港周辺の環境や施設配置についても観察し、空港と地域とのつながりを調査しました。韓国では、仁川空港・金浦空港を訪れ、施設構成や地域文化の取り入れ方を観察しました。特に金浦空港では、韓国国立航空博物館を見学し、航空の歴史や空港の役割について理解を深めました。



これらの現地調査を通して、海外の空港は観光客と地域の人どちらか一方ではなく、両方が楽しめる空間として設計されていることが分かりました。空港が移動の場であると同時に、滞在したくなる場所になっている点が、今の静岡空港との大きな違いだと感じました。

4 アンバサダー活動

アンバサダー活動では、日本の文化や魅力を海外の人に伝えることを意識して活動を行いました。ホストファミリーに対しては、抹茶を実際に点てて振る舞い、その作法や意味について英語で説明しました。慣れない英語での説明に最初は緊張しましたが、興味を持って話を聞いてくれたことが印象に残っています。また、静岡の伝統工芸である竹千筋細工を実物で見せながら、その歴史や作り方、特徴について紹介しました。写真や言葉だけでなく、実物を使って伝えることで、日本や静岡の文化の魅力がより伝わったと感じました。



この交流を通して、文化を伝える際には体験を通じて伝えることの大切さを学びました。この経験は、今後、空港を拠点に地域の魅力を発信する取り組みにも活かせると感じました。

5 探究活動の成果

シンガポールや韓国の空港では、その土地ならではの文化や特徴を空間づくりに取り入れている点が強く印象に残りました。空港内には体験型施設や展示が多く、移動のためだけでなく、滞在そのものを楽しめる工夫がされていました。

また、空港周辺とのつながりも意識されており、空港が地域の魅力を広げる起点として機能していると感じました。利便性や最新設備だけでなく、地域性と快適さのバランスを取ることで、誰にとっても使いやすく、何度でも訪れたい空港が生まれているのだと分かりました。これらの事例から、空港は単なる交通拠点ではなく、工夫次第で地域の魅力を伝え、人を惹きつける観光資源になると感じました。

6 留学を終えて

今回の留学を通して、自分から行動し、挑戦することへの自信が大きく身につきました。海外で空港の調査や利用者へのインタビューを行い、慣れない環境の中で英語を使って人と関わった経験は、以前の自分では想像できなかったことです。その結果、失敗を恐れずに行動し、新しいことに一歩踏み出すことが以前よりも楽になりました。また、シンガポールや韓国の空港を訪れ、空港が地域の魅力を発信する拠点として機能している様子を学んだことで、空港運営や地域活性化に関わる仕事への関心が高まりました。将来、大学でどのような分野を学び、社会にどのように貢献したいのかを具体的に考えるきっかけにもなりました。



現在は、留学で得た学びを活かし、静岡空港を会場としたイベントの企画に取り組んでいます。海外空港の事例を参考に、空港を「通過点」ではなく「目的地」として感じてもらえるよう、若い世代や家族連れが楽しめる企画を検討しています。今回の留学で得た経験を一度きりで終わらせるのではなく、今後も空港を起点とした地域活性化に継続して取り組み、静岡の魅力を広く発信していきたいです。